

中学校の生徒指導に関する養護教諭の認識が養護実践に及ぼす影響

M20-4401 秋山真里奈

I. 研究背景と目的

近年子供たちの抱える課題は複雑化しており、包括的な指導のための生徒指導の組織化・体系化が望まれる中で、養護教諭の生徒指導参画へのニーズが高まっている。このことは、「生徒指導提要」¹⁾で養護教諭に関する記述が大幅に増加したことや、「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」²⁾において、養護教諭が健康面だけではなく生徒指導面でも大きな役割を担っていると明言されていることから窺える。一方で、生徒指導は「一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」³⁾と定義されているが、現実には「指導死」⁴⁾という言葉も生まれるなど、行き過ぎた指導の存在があり、子供を「養護」する立場である養護教諭の実践と必ずしも整合性を保てない。それにも関わらず、これまで生徒指導と養護教諭の実践との関係性や課題は十分に検討されてこなかった。そこで本研究は、養護教諭の語りから生徒指導が養護教諭にどのような影響を与えているか、その関連の構造を明らかにした。その結果に基づき、中学校の生徒指導における養護教諭の専門性を活かした参画の在り方について提案した。

II. 研究方法

中学校に勤務する養護教諭 8 名を対象に、2021 年 8 月～12 月に半構造化インタビューを実施した。主な質問は、生徒指導に関してどのような認識を持っているか、勤務校において生徒指導にどのように参画しているか、生徒指導に携わることで意識や行動に変化があったかという内容である。データの分析は、テーマ分析の方法⁵⁾を用いた。調査対象者には、口頭及び文書で、研究の目的や方法、協力への自由意志、随時拒否・撤回の自由、プライバシーの保持と配慮について説明し、書面により同意を得た。

III. 研究結果

分析の結果、【養護教諭が抱く生徒指導観】【生徒指導を通じた養護教諭の意識の変化】【生徒指導を通じた保健室対応の変化】【養護教諭の専門性を活かした指導参画】【養護教諭の行動選択に影響を与える要因】という 5 つのテーマが生成された。まず、養護教諭は、中学校の養護教諭として勤務し生徒指導に参画する中で、中学校の生徒指導の在り様を理解し、【養護教諭が抱く生徒指導観】を形成していた。この生徒指導観を基に、生徒指導の在り方に対する態度の形成、すなわち【生徒指導を通じた養護教諭の意識の変化】が起っていた。そして、過去の指導経験等の【養護教諭の行動選択に影響を与える要因】と関連しながら、【生徒指導を通じた保健室対応の変化】及び【養護教諭の専門性を活かした指導参画】が実践されていた。また、これらのテーマから抽出されたカテゴリーは、下図の関連を示した。

IV. 考察

義務教育の最終段階である中学校において、生徒指導は生徒の成長を促進する重要なファクターであり、養護教諭もその専門性を活かし、あるいは専門の垣根を超えて、日々生徒の指導に当たっていた。一方で、指導の一貫性を求める教員の意識や学習保障の徹底により、ケアをするという養護教諭の専門性は調整を迫られていることが推察された。本来子

供は学習を受ける権利のみならず，ケアを受ける権利を有している．先行研究において，保健室という養護空間における働きかけが生徒の心身をケアし，授業という指導の場に戻る活力を与えるという循環関係になっていることが指摘されており⁶⁾，指導とケアは対立するものではなく，協働関係にあると言える．しかし，現状の生徒指導では子供が十分にケアされているとは言い難い．もとより教員全体で協働し子供の成長を支援する体制が確立されつつあるが，全教員が指導とケアの視点の両方を明確にして生徒指導に当たることで，一層きめこまやかな支援体制が構築され，「学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く，充実したもの」に変容する一助となるはずである．指導とケアの均衡を適正化するという観点において，今後養護教諭は学校のケア機能の充実に貢献する人材となることが期待される．今後は対象者を拡大するとともに，ケアに焦点を当てた指導の在り方についてより実践的な検討が必要である．

V. 結論

本研究では，【養護教諭が抱く生徒指導観】【生徒指導を通じた養護教諭の意識の変化】【生徒指導を通じた保健室対応の変化】【養護教諭の専門性を活かした指導参画】【養護教諭の行動選択に影響を与える要因】という5つのテーマが生成・構造化され，生徒指導が養護実践に影響を与えていることが明らかになった．

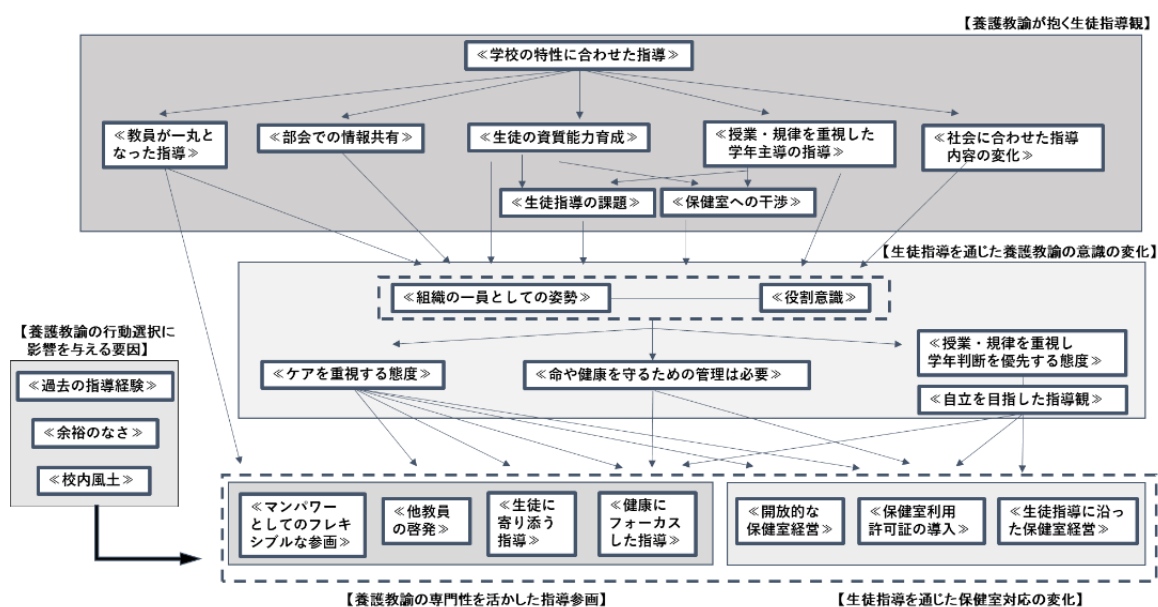


図 中学校の生徒指導に関する養護教諭の認識が養護実践に及ぼす影響

主な引用文献

- 1) 3) 文部科学省：『生徒指導提要』，教育図書，東京，2010
- 2) 文部科学省：チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（答申）．中央教育審議会，2015
Available at : https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1365657.htm Accessed : 2021/12/11
- 4) 天貫隆志，住友武，武田さち子：『「指導死」追い詰められ，死を選んだ七人の子どもたち。』高文研．2013
- 5) Christen Erlingsson, Petra Brysiewicz: A hands-on guide to doing content analysis. African Journal of Emergency Medicine, 7(3), 93-99, 2017
- 6) 堂本志保: 保健室頻回利用生徒の保健室利用におけるジレンマ, 教育科学セミナー (50), 29-42, 2019